

b. 雑木林

那須野原およびその周辺の区域の樹林は、薪炭林^{しんたん}として人為的に維持されてきた二次林が大半であり、アカマツ林、コナラ林、スギ・ヒノキ植林が分布している。アカマツ林やコナラの雑木林はやや乾燥した所に多く、アカシデ、エゴノキ、クリ、カスミザクラ等も林内に混生し、林床にはワラビ、ゼンマイ、ヤマユリ、シュンラン、チゴユリ等が見られる。

那須野原から山地帯にかけての標高 800m 付近までに見られる鳥類は、シジュウカラやエナガ、ゴジュウカラ、コゲラ、ムシクイ類、オオルリ、キビタキ、カケス、メジロ、ホトトギスなどの森林性の種や、ウグイス、ホオジロ、キジバトなどの木が比較的まばらに生えた林を好む種、キセキレイ、カワガラスなどの水辺の種が見られる。



図 4-14 那須野原の雑木林

(写真：磯 忍氏 平成 17 年 5 月)



シュンラン (ラン科)

(写真：榎日水コン)



チゴユリ (ユリ科)

(写真：榎日水コン)

図 4-15 那須野原の雑木林の林床で見られる植物



キビタキ (ヒタキ科)

(写真：栃木県立博物館)



ウグイス (ウグイス科)

(写真：栃木県立博物館)

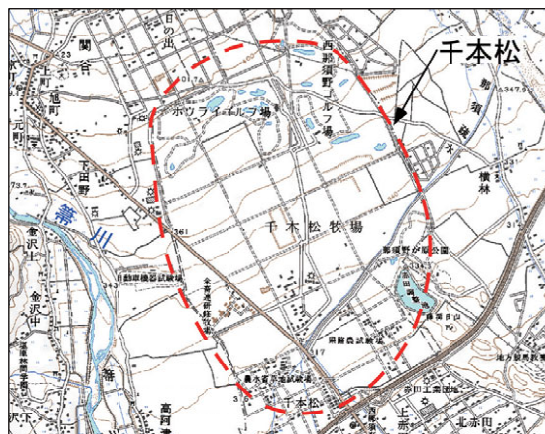


コゲラ (キツツキ科)

(写真：栃木県立博物館)

図 4-16 那須野原の雑木林の鳥類

那須野原の千本松周辺にはアカマツ林と牧場が広がり、オオタカの生息地として全国的にも有名である。オオタカは主に牧草地で餌となる鳥を捕え、^{えいそつ}営巣場所としてアカマツ林を特に選択している。一方、平成2年（1990）以降、アオゲラ、サンショウクイ、クロツグミ、アカモズ、チゴモズの記録が少なくなっている。この原因はアカマツ林やその周辺の牧草地の環境変化や越冬地の環境の悪化などが考えられているが、まだ明らかにはなっていない。



オオタカ（タカ科）
(写真：小菅 次男氏)



千本松牧場のアカマツ林
(写真：磯 忍氏)

図 4-17 千本松とオオタカ

栃木県内でも多様性豊かな雑木林では、オオムラサキやゴマダラチョウが見られるほか、クロミドリシジミ、ウラミスジシジミ、県内でも那須地域以外では確認されていないウラジロミドリシジミなどの森林性のチョウ類も見られる。



クロミドリシジミ（シジミチョウ科）
(写真：栃木県立博物館)

ウラミスジシジミ（シジミチョウ科）
(写真：栃木県立博物館)

図 4-18 那須野原の雑木林の昆虫